

宿縁

十一月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号
浄土真宗 本願寺派 中原寺
TEL 0477-372101
FAX 0477-372102

「人間の尺度」から 「仏の尺度」への転換



先日A新聞の投書欄に載っていた六十代読者の声が目に残りました。
その内容は「ある朝のラッシュアワー車内の女子高生の会話を愕然！」としたというもの。それは人身事故により電車が止まってしまった車内で二人の女子高生がスマホを見ながら会話をしている、「何もこんな時間に電車で飛び込まなくてもいいのにさあ、迷惑だよ。飛び込んだら空いている午後二時ごろとかにしてほしいよ。」という声にひどく驚いたという記事です。

千葉市川市国府台五丁目二十六番三十九号
浄土真宗 本願寺派 中原寺
TEL 0477-372101
FAX 0477-372102

親鸞聖人のもの考え方には深い深い洞察力があります。そのことを物語る一端に歎異抄のことばが挙げられます。

「善人なおもて往生をとぐ、いわんや悪人をや。しかるを、世のひとつねにいわく、悪人を往生す、いかにいわんや善人をや。この条、一旦そのいわれあるにたれども、本願他力の意趣にそむけり。」(第3条)

(善人でさえ浄土に往生することができないのです。まして悪人はいうまでもありません。ところが世間の人は普通、「悪人でさえ往生するのだから、まして善人はいうまでもない」といいます。これは一応もつともようですが、本願他力の救いのおこころに反しています。)

これは有名な「悪人正機(あくにんしょうき)」といわれる親鸞聖人の教えです。

私たちはさまざまな現象に対して知らず知らずのうちに評論家または批評家になっています。それは自分を問題にせず外部を眺め物にしているということです。

親鸞聖人のすごさは常に自分はどうなのかとの問いをされたということです。「歎異抄」は長い間一般人の眼に触れる

ことがありませんでした。それはこの聖教を書写した蓮如上人がその奥書に、「右この聖教は、当流大事の聖教となすなり。無宿善の機においては、左右なく、これを許すべからざるものなり」(この「歎異抄」は、わが浄土真宗にとって大切な聖教である。仏の教えを聞く機会が熟していないものには、安易にこの書をみせてはならない。)

としたためられていたからです。何故なのでしょう。ここに示された親鸞聖人の言葉の一つ一つは人間の思慮分別を超えた仏の絶対的眞実から発せられた言葉だからです。人間の能力を駆使して解ったというような世界ではないからです。

「歎異抄」における親鸞聖人の肉声は「他力信心」の極致です。非常に切れるカミソリだと、余りに切れるためにケガをする危険があります。人間の尺度から接すると落とし穴が多いから「カミソリ聖教」と言われます。だから仏縁浅い人には間違った解釈をし、人をも惑わすことになるから慎重に読まなくてはならないとの注意書きです。

確かに人間の常識では悪人より善人が望まれ、善人への努力を良しとします。しかしこの人間ゆえの感覚にするどい疑問を持つた親鸞さまの次のお言葉にはっとします。

「何が善であり何が悪であるのか、そのどちらか私親鸞はまったく知らない。なぜなら、如来がそのおこころで善とお思いになるほどに善を知り尽くしたのであれば、善を知ったといえるであろうし、また如来が悪とお思いになるほどに悪を知り尽くしたのであれば、悪を知ったといえるからである。しか

しながら、わたしどもはあらゆる煩惱をそなえた凡夫であり、この世は燃えさかる家のようにたちまちに移り変わる世界であって、すべてはむなししいつわりで、眞実といえるものは何一つない。その中であって、ただ念仏だけが眞実なのである」と。

さて投書欄の声を戻しましょう。人身事故に遭った女子高生の会話のやり取りは、ただ驚愕するだけの問題で済むのでしょうか。実は彼女たちの言葉は誰の心の底にも潜む意識構造ではないのかと思います。人間の命は等しく地球より重いものと分かっているようなつもりでいながら、心の深層にはわが立場が優先されていることに気づかされるところに「罪悪深重(ざいあくじんじゅう)」との自覚が生まれるのです。

人間の尺度からはあくまで「善人正機(ぜんにんしょうき)」、私は善人であって、気の毒な悪人も仏の救いの対象にはなるのだからとの見方です。

親鸞聖人の徹底した罪の自覚(悪人正機)は、女子高生の会話を例にすれば、私の内側に彼女らと根を同じくするような感情を認めていくことだということでしょう。

親鸞聖人は人間の思いから発生する善悪の判定は曖昧で、「阿弥陀仏の本願力をたのむ」一つがすべての人間が救われる道であると言いつつ切りました。

親鸞聖人の「他力(阿弥陀仏の本願力)をたのむ」というのは、「あてにする」「頼む」ではなく、「よりどころとする」という意味です。「私(自我)」を優先させることを捨てて、逆に私は阿弥陀仏から何を願われているかを聞きとめて生きることが今大切です。

【寺灯雑記】

○子守唄から現代と未来を問う

10/21

講師に日本子守唄協会の理事長である西館好子さんを迎え、第29回中原寺文化講演会が山崎製パン企業年金基金会館を会場に開かれました。

雨天にも拘らず150名を超える人たちが来場し、子守唄から見えてきた現代の世相と未来への願いを考える良き講演会でした。

左記はアンケートからの声の一部です。

◇なかなか聴けない講演でした。

少しの時間でしたが心がなごみました。

大変良かったです。

親子の関わりが薄れてきているだけに考えさせられました。子守唄、童謡は消してはいけないと思います。(八十代女性)

◇生を受けた人間として、一番大切なことを

教えて頂きました。子守唄の歴史と共に仏の教えの深さも学ばせて頂き、ありがとうございます。(七十代女性)

◇子守唄に深い意味があることが分かりました。哀愁漂う唄声に切なくなったり暖かい気持ちになったり、今日はありがとうございます。(七十代女性)

◇もう十年近く前のことですが、初めて孫が生まれた時に遊びに行つては孫をだっこして「雨降りくまのこと」という名前の唄とありますが、「お山に雨が降ってきて…」という内容の唄をうたって背中をポンポンと叩くとあくびをふわあつとして眠ってしまう孫を可愛らしいと、こちらの気持ちもおだやかに温かに過ごせた日々を思い出しました。子供達に良い唄を伝えて心

を育てたい。そして娘達に今日の話を聞かせたいと思いました。(六十代女性)

◇サラエボの声なき子守唄に衝撃を受けました。(六十代男性)

◇子守唄と名の付く講演会に参加した記憶がないのですが、この子守唄から時代を見るという事は素晴らしい視点であると存じます。(五十代男性)

○温かく迎えてくれたご旧跡寺院参拝

10/24~25

1泊2日の日程で行われた親鸞聖人ゆかりのご旧跡寺院参拝旅行は29名が参加して実施されました。

北茨城の宿から市川までの送迎バスでゆったりとした気分で那珂市の上宮寺さんと銚田市の無量寿寺さんをめぐり、関東在住の時の親鸞聖人との縁起をお聞きすることができました。温かなご接待を戴きながら紅葉のはじまった広い境内を散策し、往時に想いをめぐらせました。

太平洋に面した宿では3、11の天津波被害に遭ったことを思い起こしつつも、宴会では大いに盛り上がりさらなる親睦を深めた旅でした。

○浄土園の収穫を楽しむ

11/3

土を耕し、草をとり、種や苗を植えて野菜を育てる浄土園の作業に参画しているお仲間を囲んでの収穫感謝祭に9人が集まりました。

今年雨が多く日照不足もあってさつま芋は小さめでしたが里芋は大きくたくさん

獲れました。この日は暖かな陽気になって浄土園でのバーベキューは賑やかでした。

○お仏具磨き・清掃奉仕ご苦労さま

11/4

もつとも大切が仏事「報恩講」の時節を迎えて、お莊嚴仏具のお磨きと清掃に30名ほどがご奉仕下さいました。

中には毎回、自分は手伝えなくなったからと別居している息子さんに参加して、とてもうれしいことと感謝しています。

○被災地から支援物資の御礼に来寺

11/4

東日本大震災への支援物資を贈っていただいたお礼をかねて、気仙沼でその活動に従事しているボランティアの小野寺容さんが来寺され、婦人会・壮年会合同法座で震災時の模様とその後の復興状況と集められた支援物資の仕分け作業等についてパネルを使い詳しい説明を受けました。

そしてこの日の合同法座に参加したおよそ40名の人たちと質疑を交わし、あらためて現地復興の厳しさとボランティアのご苦労を深く感じました。また同時に支援募金が集められ、五万六千円を寄贈しました。

○他寺と交流ランドゴルフを楽しむ

11/10

松戸の金ヶ作公園で天真寺さんとの交流ランドゴルフ大会を開き、当寺から強者7名が参加。総勢17名で競技をしましたが当寺の山田敏彦さんがホールインワン3回という快挙で見事優勝しました。

【法要・行事・法座の案内】

☆親鸞聖人報恩講法要修行

*十一月二十日(月)

- ・(夕暮れから参道に紙絵灯籠に火が灯ります)
- ・五時…箏曲と尺八による音の調べ
- ・五時半…速夜法要(初夜礼讃・御伝鈔)
- ・引き続き…法話(住職、前住職)
- ・おとぎの接待

*十一月二十一日(火)

- ・六時半…晨朝勤行(正信偈)
- ・十一時…日中法要(讚仏偈)
- ・引き続き法話①(蓮照寺住職松岡満優師)
- ・「人生を貫く念仏―愛別離苦を超えて―」
- ・正午…おとぎの接待
- ・一時…ご満座法要(正信偈)
- ・引き続き法話②(蓮照寺住職松岡満優師)

(三時には終了予定です)

真宗門徒にとって最も大切とされる法要です。是非時間をあけてお参りください。

○和讃に学ぶ 十一月二十五日(土) 三時

○婦人会法座 十二月二日(土) 一時

○門信徒会役員会 十二月二日(土) 三時半

○壮年会法座 十二月九日(土) 三時

○年末懇親会 十二月九日(土) 六時

場所…一幸(高塚新田)

(五時半にお寺へバスの送迎があります。)
・参加費…8千円(男性)、7千円(女性)

【十一月の掲示板のことば】

やさしく明るい あなたの笑顔は
安らぎとあたたかさとなり
与えてくださる